



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

武田 大二郎



令和7年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、能登半島の大地震という波乱の幕開けでしたが、今年は平和な一年であることを祈るばかりです。

さて、昨年も信用金庫のための情報サービス会社として、種々活動をしてきましたが、蝸牛の歩みながらも少しでもお役に立てるサービス提供に向けて尽力してまいりました。

中でも、いよいよ人材不足問題が顕著になり、余裕の無い運営を余儀なくされている状況で、コスト‘削減’や事務の‘効率化’といったこれまで必ず言われていたキーワードに加えて、同じような意味合いではあるものの、「合理化」という考え方が大変重要になってくるのではないかと感じております。

昨年は、金庫運営を圧迫している「相続業務」について、何とか共同化・共通化に向けて進められないだろうかとこの思いで、先進的に取り組んでいる富山県の視察を実施し、北信協ともしっかり連携したうえで、業界としての動きが始まったところです。

これ以外にも、少しでも共同化・共通化そしてアウトソーシング業務を増やしていくことで、金庫運営の負担軽減の一助となればと思案しております。

各地の信用金庫のみならず、当社も例に漏れず人材確保が非常に厳しい状況となってまいりました。数年前には考えられなかったことであり、これを時代のせいとして傍観してられないのは言うまでもありません。

最近では、その人材確保のために、転職ビジネス市場はますます大盛況となっておりますが、この売り手市場は日本の根底を狂わせる、社会の闇になっているような気がしております。

先般、たまたま目にした転職サイトには、こう書いてありました。『あなたの会社には、以下のような課題はありませんか？ ①若手や管理職の離職が増加している

②定着率を高める対策がうまくいかない ③働き甲斐を向上させたいが、具体策がわからない…』

…まるでこれらの課題を解決してあげましょう、と言わんばかりの書きぶりでしたが、少なくとも上の2つは、あなた達転職サイトが若者を煽り、あまりにも過度な露出をするから、こういう世の中にしているのでしょうかと言いたくなるような内容です。

しかも最近では、超大手企業の社長までもがテレビCMで共演し、人をかき集めようとする始末。「AIも、DXも、その先も、欲張りなあなたをお待ちしています…」などと言って転職CMに出演している超一流企業がありますが、そんな組織で活躍できる優秀な人は極一握り。その現実がわからず、夢を見て「挑戦」という一見ポジティブな言葉を都合よく捉え、更に隣の芝生が青く見えて離職・転職する若者が、実に多いのです。

AIも、DXも、その先も、しっかり考えたいならもっと身近に、直接的に貢献できる身の丈に合った組織は山ほどあるはずです。

大企業のプライドも何もあったものではない、地方創生・地方活性化などと口では言い、地方を考えているかのように振る舞う割に、中央に人を集めようとする動きはまるで矛盾しており、人材獲得は、まさに「仁義なき戦い」になってきたようです。

最低限のマナーや常識さえも怪しい世の中になってきて、この先を憂う気持ちばかりが大きくなってしまっていますが、少しでも明るい未来に繋がられるよう、精一杯活動するしかありません。

今年も率直に思いを書かせていただき、おおよそ新年のご挨拶には相応しくない文面となってしまいましたが、兎にも角にも当社は業界のために、誠心誠意尽力してまいりますので、何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長

山本 広幸 (帯広信用金庫 業務サポート部 部長)



新年あけましておめでとうございます。
新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
昨年の3月、日本銀行は2016年1月の導入決定以来、大規模な金融緩和策の柱となってきた「マイナス金利政策」を解除しました。日銀による利上げは、2007年2月以来およそ17年ぶりで、その後、7月の金融政策決定会合で政策金利を0.25%程度に引き上げる追加利上げを決め、いよいよ「金利ある世界」への回帰が現実味を帯びてきました。

思い起こしますと、私が入庫した1990年はバブル景気の後期で、日銀は景気過熱を抑えるため当時の金融調節手段であった公定歩合を段階的に引き上げ、同年には6%まで引き上げました。それに伴い、定期預金金利は2年物で6%を超え、大口定期では8%を超える時期もありました。そして数年後にはバブルが崩壊し、多くの金融機関が経営破綻に見舞われ、日本は「失われた10年、20年」を経験する中で低金利時代へ突入して行きました。

低金利時代が続き、利ザヤの確保が厳しいなか、多くの金融機関はコスト削減を目的とした「合理化・効率化」に注力しながら金融サービスの提供を続けてきましたが、信用金庫を含む地域金融機関では、地域の高齢化や人口・事業所の減少、自行庫自身の人員不足などが顕在化し、将来に向けたサービスの提供・維持が大きな課題とされています。

このような状況の中、道内においても同じ課題を抱えている信用金庫様が多いと思われます。特に人員の確保は非常に厳しいとされており、それを補うためには業務の更なる「合理化・効率化」が必要と考えます。

「合理化・効率化」を進めるにあたっては、それを企画し実行する人員が必要ですが、担当する部門への追加配置はなかなか難しいようです。また、マネロン・テロ資金供与対策(AML・CFT)における継続的顧客管理への対応や、昨年10月に公表された「金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドライン」への対応など、専門性の高い業務に従事する人員の確保・養成・育成も重要な課題です。

例えば金融庁では、サイバーセキュリティ対策のカギは、「自助」、「公助」、「共助」の3つの視点がありますが、サイバーセキュリティを含み、前述のような「自助」だけでは難しい様々な課題についても、道内信用金庫業界の「共助」にて乗り越えられる可能性があると思います。HSISはまさに「共助」の役割を担っており、主催いただいているシステム検討委員会では、各種制度対応やサイバーセキュリティ対策等の情報交換・共有、業務共同化の検討などを行っております。

今後も、当委員会は勿論のこと、HSIS主催の各種会議体あるいは説明会や情報交換会などを活用し、道内信用金庫共通の課題解決に繋がる活動を進めて参ります。

最後になりましたが、新たな一年が皆様にとって、明るく希望に満ちたものとなりますよう、心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長

戸島 隆志 (遠軽信用金庫 常勤理事)



新年あけましておめでとうございます。
令和7年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2024年1月1日に発生した石川県能登半島を震源とした地震に加え、その後の記録的大雨による河川の氾濫や土砂崩れ等により困難な生活を送られている被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

昨年は喜怒哀楽を全身で表現し、笑顔が印象的な北海道出身の北口選手によるパリオリンピックでの活躍などの華やかなニュースがあった一方、長引くロシアによるウクライナ侵攻や前米国大統領の暗殺未遂事件など、世界的に力(チカラ)の行使や保護主義の台頭による不安定感を覚える1年でありました。

一方、国内情勢につきましては、2007年以来17年振りとなるマイナス金利政策の解除に加え、翌月には外国為替市場で約34年ぶりの水準となる1ドル=160円まで円安が進行するなど、金融市場の潮流の変化を感じた方々も多かったのではないのでしょうか。

昨今の消費者物価指数はバブル期並みの高い伸び率を示しており、原材料価格の上昇を価格転嫁する形での物価上昇が続いていますが、好ましい物価上昇を持続させるためにはサービス価格の上昇が必要となります。サービス価格の重要なファクターは人件費であり、慢性的な人材不足も相まって、継続的な賃上げが求められているところです。

日本銀行による金融政策の変更を受け、「金利のある世界」に戻ろうとしています。私見ではありますが「金利は経済の体温」であり、これまでのゼロ金利やマイナス金利は低体温による冬眠状態だったといえるのではないのでしょうか。

今後どの程度まで金利が上昇するのかは予断を持つべきではありませんが、物価や賃金が上昇し、結果として経済の体温も上昇する。そんな正のスパイラルが実現する可能性も考慮し、「金利のある世界」で競争力を維持するため、DXを始めとする業務改革による顧客接点の拡大、人材育成に注力する時間の捻出等の必要性を感じているところです。

令和6年度もマネー・ローンダリングへの対応に追われる年となりました。態勢整備は一段落したものの、特殊詐欺への対応に大きなスポットが当たり、我々のお客様の大切な財産を搾取する事件が多発しました。また、その手口も匿名性の高いデジタルツールが使用されるなど変容してきています。我々の業態を騙った電子メール、WEB-FB等への不正ログイン、こういった手口は今後ますます巧妙化することが懸念されます。

お客様の財産のみならず、金庫の財産を搾取するようなサイバー攻撃も身近に迫ってきていると感じています。先般公表された「金融分野におけるサーバーセキュリティに関するガイドライン」について対応を進められていることと思いますが、相応の知見とマンパワーが必要だと感じています。

こうした環境下、個々の金庫や個人の力で解決の難しい事案について、本会委員の皆様の見解を持ち寄り、重要インフラ事業者としての責務を果たしていければと考えております。

結びになりますが、新しい年が道内信用金庫並びに役職員の皆様にとって、輝かしい1年となることを祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

テレビ会議システムLive On「オンライン窓口相談機能」のご紹介

当社で提供しているテレビ会議システムLive Onの有効活用として、「オンライン窓口相談機能(LiveOnCall)」をご紹介します。

本機能は、顧客は呼び出し操作のみと誰でも使える簡便さがあしながら、高品質な映像と途切れない音声で、対面と変わらないコミュニケーションが可能となっており、本部⇄営業店間などに設置することで、窓口の混雑緩和や人手不足への対応など業務効率化が期待できます。

本テレビ会議システム未利用金庫はもちろんのこと、ご利用いただいている8金庫におかれましても、システムの有効活用として、是非、導入をご検討賜りますようお願い申し上げます。

なお、タッチディスプレイやマイクスピーカーなど本機能の周辺機器につきましては、北海道グローリー(株)にて用意しておりますので、併せてご相談いただきますようお願い申し上げます。

ご利用シーン例

オンライン窓口相談 こんな課題を解決!

課題

- ・ 営業店では対応しきれない相談業務
- ・ 顧客が本部・本店まで行くケースがある
- ・ 専門的な知識を持つ人材不足



解決

- 移動が不要(顧客・専門担当者ともに)
- 顧客満足度、サービス品質の向上
- 業務効率化

想定シーン

- ◆ 顧客を営業店の相談窓口ブースへ案内
- ◆ 専用端末より、LiveOnで専門担当者を出し

利用イメージ



本サービスにご興味をお持ちの金庫様は、企画・営業推進課までご連絡ください。

☎011-221-2210

オフィスカジュアルの導入について

当社では、時代の流れに合わせ柔軟に対応するため、オフィスカジュアルを導入いたしました。本取り組みに対し、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。

また、弊社へご来訪の際は、ご遠慮なく軽装でお越しくださいますようお願い申し上げます。

適用開始日	2024年9月9日(月)
実施内容	社会人としての品位を保持し、不快感を与えない服装とする。 ただし、接客時、取引先等訪問時あるいは会議等への参加時は、相手先および内容に合わせた服装とする。

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811